

地元企業と防災訓練

工場所有ポンプで放水

水戸の住民組織

水戸市住吉町の住民らによる自主防災組織「住吉上防災会」(加瀬孝雄会長)は26日、連携協定を結ぶ地元企業と連携し、小型消防ポンプなどを用いた防災訓練を実施した。約80人が参加し、災害への意識を高めた。同会によると、自主防災組織が企業と協力し、訓練に当たるのは珍しいケース。



防災訓練でポンプを使い放水する住民ら＝水戸市住吉町

同会は昨年8月に結成され、約400世帯が加入している。これまでに地域の実情に即した防災計

画書を策定したほか、湘南工作所水戸工場(同所、小林永世工場長)と協定を結び、同社が所有する小型消防ポンプを災害時の初期消火に活用することを決めるなど、防災への取り組みを続けている。

放水訓練で参加者は、同社員からポンプの扱い方について説明を受けた。エンジンの始動から始まり、ホースをつなぎ合わせるなどして、敷地内の貯水槽から約50メートル離れた壁に向けて放水した。

このほか、参加した市立吉田小の児童らは地図を手に町内を歩き、防火水槽の位置や、地震が起きた際に崩れる恐れのある壁の場所を調べた。大人たちは広場で、市消防本部員から天ぷら火災が発生したときの対処法を学ぶなどした。

訓練を見守った高橋靖市長は「地区の安心と安全を守る皆さんに感謝したい。行政としても活動を支援したい」と話し、加瀬会長は「大切な財産と命を守るため、引き続き訓練を重ねたい」と決意を示した。

(鈴木剛史)



11月27日 日曜日

茨城新聞社

〒310-8686
水戸市笠原町978-25
電話(029)239-3001(代)
http://ibarakinews.jp
編集局
電話(029)239-3020
FAX(029)301-0362